

第2章 大阪市の水環境の現状と課題

第1節 水環境の現状と課題

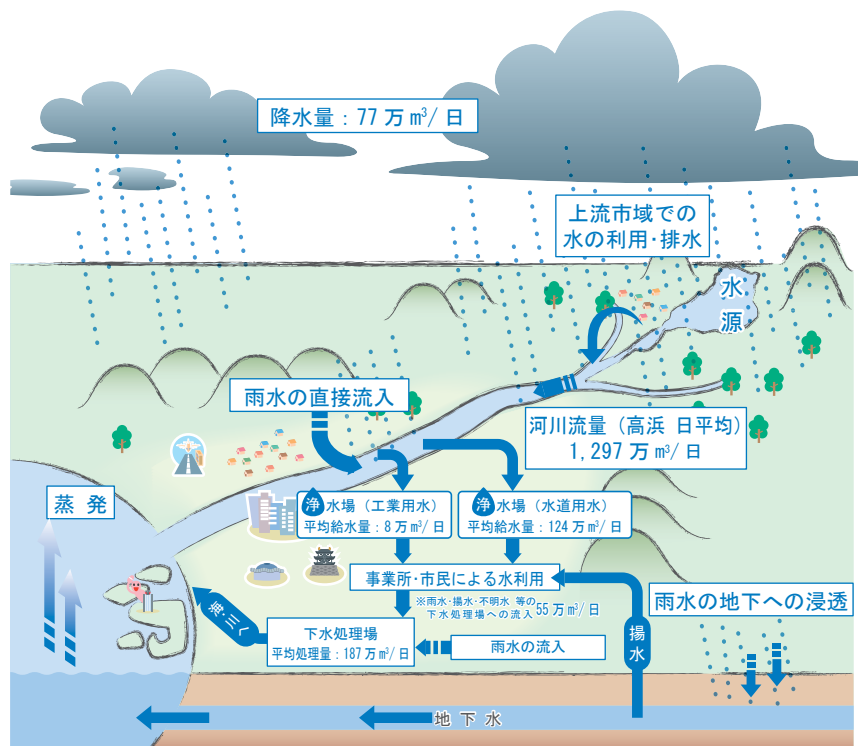
1 水循環

地上に降り注いだ雨や雪は、蒸発又は地中に浸透します。地中に浸透した水は、一部は地表面や植物の葉からの蒸発散*により再び大気に戻り、一部は地下水の流れとなり、ゆっくりと河川や海域へと流れ出ます。浸透しなかった水は、地表から河川に流れ、海に注ぎます。河川や海域では、一部は蒸発し再び大気に戻ります。このように、水は様々な過程を経て循環を繰り返しています。

しかし、大阪市では、近年、宅地や道路整備など都市化が進展し、アスファルトやコンクリートで地表が覆われることにより、水の貯留、蒸発散そして地中への浸透が阻害され、都市の保水機能が低下しています。これにより、ヒートアイランド現象*を助長させたり、雨水が一気に河川へ流出したり、また、地下水の流れが悪くなるなど、健全な水循環が阻害されています。

本市では、これまで雨水流出抑制など、健全な水循環の構築に寄与する施策を実施してきました。

本市では、1日平均132万 m^3 の水を淀川から取水して、水道用水、工業用水として利用しています。この量は、本市内に降り注ぐ降水量の1.7倍に相当し、本市の水利用は淀川の水資源に大きく依存しているといえます。利用された水は、下水処理場で処理され河川に放流されます。



出典：工業用水平均給水量；大阪市水道局資料（H20年データ）／
 水道用水平均給水量；平成21年大阪市統計書（大阪市 H20年データ）／
 下水処理場平均処理量；平成21年大阪市統計書（大阪市 H20年データ）／
 河川流量；国土交通省資料（H20年平均値）／
 降水量；大阪管区気象台（平成20年データ）

*の付いている語句は、巻末資料で解説を記載しています。